

次世代機・ボーイング787-10 国内線仕様機が 新千歳空港に初登場



全日空が新たに導入を決めた最新鋭機ボーイング787-10の国内線仕様機が3月27日、羽田発新千歳行き59便で初就航しました。同便は乗客416人を乗せ午前11時46分に着陸。就航記念セレモニー終了後には折り返し羽田行き62便として、乗客348人とともに午後1時過ぎに離陸しました。

ボーイング787-10は、787シリーズで最長となる全長68.3mの中型機。席数もプレミアムクラス28席、普通席401席の計429席で、同シリーズ歴代機に比べ30席以上多いのが特長。ボーイング777型機と比べて約25%の燃費

改善が見込まれるなど燃費性が向上しており、全席に薄型パーソナルモニターや電源、USBポートを装備するなど快適性・機能性にも配慮した設計が施されています。就航記念セレモニーでは、植松社長が「これからお客様にワクワクをお届けする新たな時代の始まりです。環境性能と快適性を兼ね備えたボーイング787-10をぜひお楽しみください」とあいさつ。蒲生社長も「これから国内で最も多く新千歳線にボーイング787-10を投入していただきたい。私たちも座席が満杯になるよう最大限の努

力をしたい」と大きな期待を寄せていました。全日空では、2019(平成31)年4月に日本の航空会社では初めて導入した国際線仕様3機と、今回の国内線仕様2機を保有(3月27日現在)。今後は羽田と新千歳、大阪(伊丹)、福岡、那覇などを結ぶ国内主要路線に投入される予定です。

ボーイング787-10は、787シリーズで最長となる全長68.3mの中型機。席数もプレミアムクラス28席、普通席401席の計429席で、同シリーズ歴代機に比べ30席以上多いのが特長。ボーイング777型機と比べて約25%の燃費

力をしたい」と大きな期待を寄せていました。全日空では、2019(平成31)年4月に日本の航空会社では初めて導入した国際線仕様3機と、今回の国内線仕様2機を保有(3月27日現在)。今後は羽田と新千歳、大阪(伊丹)、福岡、那覇などを結ぶ国内主要路線に投入される予定です。



(編集部 伊藤)

さっぽろ青少年女性活動協会(千歳市児童館・学童クラブ運営受託者)が主催する講演会「好きを極めるってどういうこと?」が3月16日、ANAクラウンプラザホテル千歳(北栄2)で開かれました。岩谷技研(江別市)の岩谷圭介代表取締役社長が講師を務め、自分の好きなことに向かって挑戦する面白さや大切さについて講演しました。

多くの情報や選択肢があふれている現代の子供たちに、自分の「好き」を極め挑戦していくことの面白さと大切さに気づく機会を提供すること、



さっぽろ青少年女性活動協会講演会 岩谷技研・岩谷社長が熱弁をふるう



子どもが大人に対して芽生える興味関心に寄り添い、応援することを目的にしたトークセミナー。会場には市内在住の子どもたちと保護者約1000人が来場しました。岩谷社長は「自分は幼稚園児の頃から宇宙が好きでした。なぜ好きだったのかというと『宇宙ステーション』の本

を買ってもらったことがきっかけになりました」と紹介。それから、家にある機械類をすべて分解して歩くほどのづくり、科学に興味を持ち始め、宇宙にも関心を持つようになったり、大学時代に宇宙を目指す研究に没頭。航空宇宙工学専攻の傍らで地球の研究開発にも取り組み、気球で宇宙を撮影することに成功した経緯などを説明しました。そして「夢ってなかなかわかりにくいけど、好きってすごくわかりやすいと思う。好きなことを掘り下げていくと夢につながる、やっているとうちに夢が変わっていくというのを学びました」とした上で「まずはやってみる、いろんなことを知ってみる、きっかけを作るためにもやってみましょう」と呼びかけました。

(編集部 伊藤)



毎月、第2、4週に掲載。地域の課題や出来事、まちの話題などのほか、毎月決まったテーマでの投稿や、身近な題材で自由に書いていただくエッセーを紹介します。

★4月のテーマは「出会い」。締め切りは、4月16日(火)。入学式や入社式、異動など、春は出会いの季節です。エピソードを交えてお寄せください。

テーマ投稿「出会い」

3、4月は多くの人が歓喜の出会いと涙の別れのいずれか、あるいは両方の経験をします。とりわけ活動が盛んな若者に多いに違いない。80歳の高齢になると、今日もかくてであり、明日もあんなに別れはともかく、特別で印象に残る出会いはほぼないというのが日常だろう。

歓喜も涙も 祈答院 義邦さん(80歳・無職) = 北広島市

自分の立ち居振る舞いが問われる。故郷鹿島町の中学時代の級友との交流は続いている。5人組のうち、1人は今でも懇意な関係にある。彼らと共に過ごした時間は貴重で、美しい思い出。思えばこれまで、人との貴重な機会も見逃してばかり。それでも普通に、トラブルなく隣人と付き合っている。私にとって、一生懸命はいつい力が入ってしまい、頭も体も疲れる。ほどほどに暮らせて、多くの人との交わりがあるなら幸せだ。

4月に学部3年生になった。学生生活で最も大きな収穫は共に学ぶ仲間ができたことだ。高校生のころから数学に苦手意識があった。そんな自分を克服しようと考えていた折、友達に誘われ、高校数学より抽象的で難度が増す大学数学を学ぶサークルに入った。1年生の8月ごろだ。正直、大学のサークルには遊びほうけているようなイメージは少なく、あまり期待はしていなかった。しかし、活動は想像以上だった。授業がない時は集

エコバス問答!? 泉谷 清さん(88歳・団体役員) = 恵庭市

市内を循環するエコバスを利用して4年半が過ぎようとしている。導入された時は、市内観光ができ、これで200円は安いと、景色を見ながら楽しんだ。しかし免許証を返納後は、目的地まで車で5分の距離が循環するため25分もかかる。JRだと札幌まで行ってしまうとふと思ったりする。今一番楽しみにしているのは、前乗り・前降りのバスが来た時だ。ドアが開くと、すぐ乗りたがる人がいる。運転手に、白い手袋で無言で待たされたことが、必ずしも歓迎されていない。

学生生活の宝 吉岡 舞さん(20歳・大学生) = 札幌市

まっぴら勉強し、定期的に集合論や解析学など、サークルでのゼミを開催。また数学に限らず、他の授業や学問に関することなど幅広い話題で議論を深めた。ついていくのに苦労しながらも、すっかりサークルのとりことなり、活動場所に入り浸るようになっていた。このようにお互いに高め合うことができる環境や仲間が得られるのは大学ならではのことで、学生生活の「宝」といえるだろう。こうした学びと機会に感謝したい。

汽車通 真新しい制服に身を包んだ、汽車通の少年少女を見かける季節になりました。親に勧められ中高一貫の札幌の私立女子校に入学。初めて親元を離れた12歳の春を思い出します。札幌の親戚が下宿屋をしていたのでそこから通学することになりました。白石区の家から当時、市電で北区の学校まで通いました。学校から帰ると家が恋しくいつも泣いていました。毎週土曜になると千歳に帰り、日曜には戻ると言う生活を1年間送りました。さすがに親がちゃん

と通えるならと理解してくれ、涙の下宿生活は終わりで、中2から卒業するまでの5年間、汽車通を続けました。毎朝5時半に起き、往復4時間かけての通学は大変でしたが、千歳や恵庭、島松から乗る生徒と同じ制服を着ているだけですぐに上下に関係なく仲良くなれ、楽しい毎日でした。独立心と誰とでも仲良くなれる性格は、涙の下宿生活と汽車通のおかげでしょうか。真新しい制服姿に、心でエールを送る私です。太田 千鶴子さん(70歳・千歳商工会議所女性会副会長) = 千歳市

投稿のきまり 原稿には手を加えさせていただくことがあります。一般、テーマ投稿、エッセーとも文章は400字程度で、未発表の原稿に限りです。年齢制限はありません。ペンネームは使用可。受け付けは郵便、Eメール、ファクスで。いずれも郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号の明記を。採否のお問い合わせはご遠慮ください。採用された方には薄謝をお届けします。

宛先 郵便 〒066-0073 千歳市北斗4丁目13-20 株式会社メディアコム ちゃんと編集部「あしたの風」宛 Eメール ashitanokaze@chanto.biz FAX 0123-27-4911